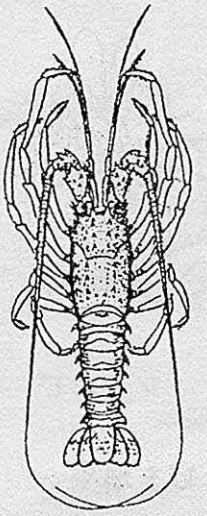
「お正月」の話題

イセエビ

正月飾りに使うイセエビ



お正月といえば、飾りにいろいろな縁起ものの動植物が飾られます。ほし柿やホンダワラ、ウラジロなどが使われますが、何と言っても最も豪華なのはイセエビでしょう。

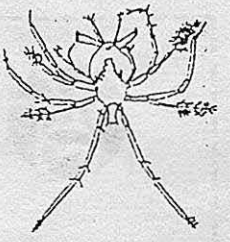
それではイセエビがなぜ正月飾りに使われるのでしょうか。

それはたぶん、イセエビが立派なよろいを来た武士の姿を連想させることや、立派なヒゲと曲がった腹の部分は長生きをした老人を連想させるところから、立派な武士の姿や長寿の象徴にされたのでしょう。

イセエビのすみか

イセエビは残念ながら富山湾や日本海にはいません。「伊勢」という名が示すように関東地方から南の、紀伊半島、四国、九州などもっと暖かい地方の海の岩の多い場所にすんでいます。イセエビは昼の間は岩のすき間に隠れていますが、夜になると岩から出て、貝、ウニ、他の小型エビなどを食べています。そこで、イセエビの漁も夜の間に行われ、刺し網をいれて捕えます。

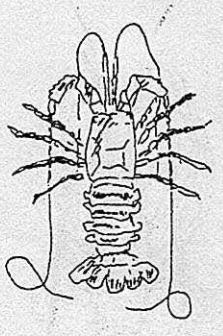
イセエビの子供



イセエビの子供は海の中をただよっていて、プランクトンネットでとれます。これは、親の立派な体つきとはかなり違って、ユーモラスなかたちをしています。これをフィロゾーマと呼びます。フィロゾーマはプランクトンネットをひいてもなかなか捕れません。親のイセエビの仲間の数が少ないため、子供の数も少ないのでしょう。

イセエビの仲間

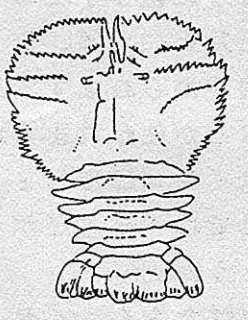
イセエビの仲間にはニシキエビやハコエビなど立派な姿をしたものが多くいます。また、ゾウリエビ、セミエビ、ウチワエビなど変わった姿のエビも親戚筋にあたります。いずれも、暖かい海を中心に多くの種類が分布しています。



ニシキエビ

セミエビ

ゾウリエビ



ウチワエビ

イセエビを増やす

イセエビは捕りすぎで、数が減っていしまいました。また、きれいな海にしかすめないので、海の汚染の影響も受け、なかなか口にすることが難しくなってきました。そこで、禁漁区を増やし、漁期をきびしく制限したり、漁具を制限したり、小さなものを捕らないようにしています。

また、すみかを増やすために海の中に石をいれて人工的に磯を作ったりしています。

現在、イセエビの仲間はアフリカ等外国から多数輸入されています。日本の海で再びたくさんのイセエビが捕れるようになって欲しいものですね。

なお、ここでご紹介したうち、いくつかの種類は富山市科学文化センターのロビーで1月いっぱい展示してあります。どうぞご覧下さい。

（布村昇）

富山市科学文化センター

〒939　富山市西中野町1－8－31

TEL（0764）91－2123（代表）

平成4年1月10日